



(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	鶴岡市役所 櫛引庁舎 産業建設課
実習期間	令和 元年 8月 20日 ・ 8月 21日 令和 元年 9月 23日 ～ 令和 元年 9月 25日
学生氏名	五十嵐聡美
実習プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大学生のフィールドスタディへの同行</li><li>・ 観光案内看板の撮影</li><li>・ 修学旅行の受け入れ業務</li></ul>
学び・気づき (300字程度)	<p>特に印象に残っているのは9月24日の修学旅行生の昼食準備、畑作体験補助である。</p> <p>まず、昼食準備ではお弁当とお茶を1つずつ袋に詰めて一人分のセットを作り、昼食の配布に入ったのだが、小学生が次々と手を伸ばす中で素早く作業することが大変だった。また、アレルギーを持つ人への対応など細かいところまで気を配る大切さを学んだ。</p> <p>その後、畑作体験で温海かぶの収穫と漬物体験へと同行した。自分の中で何をやってよいか考え、仕事を見つけることはあまり得意ではなかったが、率先して物を運んだり、使い終わったものを洗ったりなど周りに目を配りできることを探した。そして、庁舎の方に「ありがとう」と言われたときはとても嬉しかった。</p>
今後に向けた 抱負 (200字程度)	<p>今回見つけた課題は、常に周りを見て行動することである。実際に行動できたこともあったが、指導者の方が動いているにもかかわらず自分が動いていない面もあり、その力は伸ばす必要があると感じた。どのようなことが必要とされているかを考え、行動に移していきたい。また、「どうしたいですか」と聞かれた時に、あいまいな返事をしてしまったために戸惑わせてしまう場面があった。自分の意見をはっきり表明することも重要だと感じた。</p>

<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>今回のインターンシップで、大学生のフィールドワークや修学旅行などに同行し、櫛引の魅力を再認識できた。櫛引には、豊かな自然とそれによって育まれるおいしい食べ物がある。ホームステイ先を見回った時、修学旅行生たちがだだちゃ豆やフルーツを食べて「おいしい」と嬉しそうに言っていたのが印象的だった。また、観光案内看板の業務では、櫛引の観光地の場所をより分かりやすく知ってもらうために、地域内の看板を見て回った。観光客を呼び込むためには、このように一つ一つ見て回るという地道な作業が重要だということを学んだ。そして、各小学校で太鼓や能も体験したと聞き、櫛引は伝統ある文化と緑豊かな自然が共存していることを実感した。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="389 633 839 887">  </div> <div data-bbox="1002 633 1209 873">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="448 920 644 954"> <p>↑ 観光案内看板</p> </div> <div data-bbox="1011 920 1294 954"> <p>↑ かぶ漬け込みの様子</p> </div> </div>

## (別紙 12)

## 大学「地(知)の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください(様式は自由です)。

実習企業・機関	鶴岡市役所
実習期間	令和元年 8 月 20 日、8 月 21 日、8 月 27 日、8 月 29 日、8 月 30 日
学生氏名	渡部梨奈
実習プログラム	8 月 20 日〈午前〉社会福祉士定例会(高齢者虐待) 〈午後〉地域包括支援センターの活動について、認知症について 8 月 21 日〈午前〉自立支援型地域ケアについて 〈午後〉自立支援型地域ケア会議 8 月 27 日〈午前〉生活支援コーディネーターについて、いきいき百歳体操講座 〈午後〉生活支援コーディネーター定例会 8 月 29 日〈午後〉地域包括ケアの取り組みについて、医療と介護の連携研修会 8 月 30 日〈午前〉いきいき百歳体操講座 〈午後〉鶴岡市の介護予防と「いきいき百歳体操」について
学び・気づき (300 字程度)	私は 5 日間の実習の中で多くのことを学ぶことができた。中でも一番印象深かったことは、“住民主体”による「通いの場」についてだ。生活支援コーディネーターが「通いの場」の創出と活動への支援を行ったりしている。通いの場づくりの目的としては、「行政が把握できない地域課題の発見」が挙げられる。いくら行政でも、見れない部分、行き届かない部分がある。通いの場を通して地域間の人間関係を構築し、地域で見守り、気にかけて、行政ばかりに頼らず自分たちで課題を発見していくことが大切だと学んだ。私は今まで「住民主体」という言葉をよく耳にしてきたが、正直なぜそこまで住民にこだわっているのかとモヤモヤする部分があった。しかし今回お話を聞き、行政が把握できない地域課題は住民自らが見つけることの必要性、「やらされた感」では長続きしないため、「やりたいからやる」という住民主体の原則を貫くことが大切だと学び、納得した。生活支援コーディネーターは住民がやる気になった時に全力で応援する立場であり、また、「通いの場」を創っただけで満足するのではなく、継続していくために支援することも役割の一つであることが分かった。
今後に向けた 抱負 (200 字程度)	私は、「授業で得た福祉の知識を生かしつつ高齢化について真剣に考える」ことを学習テーマとして挙げていた。政策コースであるが福祉にも興味を持ち、福祉コースの科目をいくつか履修していたため、それを生かそうと健康福祉部での実習を希望した。だが実際、実習の中で「地域福祉とは何か」、「アウトリーチ」とは何かと聞かれた際に、間違った答えを言ってしまった。どちらも授業で習ったことであり、正確に答えられなかった自分が情けなく思えた。事前に復習せず、わかったフリをして実習に臨んだことが今回の反省点。社会に出てわかったフりは許されないことである。そこで、「一度学んだことはしっかり復習すること」を今後に向けた抱負とする。一度聞いただけでは完璧に覚えられないし、時間が経てば忘れてしまいがち。だからこそしっかり復習し、後からふと聞かれた時に自信を持って答えられるようにしたい。
インターンシップを して気づいた、実 習先の魅力 (300 字)	市役所という堅いイメージを持つ方が多いかもしれないが、鶴岡市役所は気さくな方が多く、方言もよく飛び交い、いい意味でありきんちょうすることなく実習に臨むことができた。働きやすい環境、この点も魅力の一つだと思う。 また、鶴岡では連携に力を入れていると実感した。実際に 2 日目の自立支援型地域ケア会議、4 日目の医療と介護の連携研修会で、多職種の方々と関わることができた。同じ事例でも人それぞれ見える情報が違っていた。つまり一つの相談、ケースでも見え方は違ってくるため、色々な視点から何が必要か考えることができ、よりよい支援ができるのだと、改めて連携の大切さを感じた。

写真(1~3点)

--	--